

報告

「有床診療所の日」記念講演会

常任理事 深澤 雅則

わが国で病人を寝泊りさせながら治療する施設がはじめて作られた日を記念して、今年から「有床診療所の日」が設けられた。平成23年12月4日（日）午後3時から5時まで日本医師会館大講堂で記念講演が開催された。

講演に先立ち、全国有床診療所連絡協議会会長で日本医師会常任理事の葉梨之紀氏と日本医師会会長の原中勝征氏の挨拶があった。

講演Ⅰ、「小石川養生所の設立と有床診療所」と題して、日本医史学会理事長で順天堂大学医学部名誉教授の酒井ツジ氏が講演された。

小石川養生所が設立された享保7（1722）年時は八代将軍徳川吉宗の時代、江戸に住む町医者、小川笙船が江戸の極貧の者を救うため施薬院を作ることの上申したことから話が始まった。

当時、江戸では独身者や生活困窮者が多く、病気になる見殺しの状態に置かれる者が多かった。将軍吉宗が名称を施薬院ではなく「養生所」として享保7年12月4日に開所したのである。収容定員は初め40名であったが、翌年から100名に増やしている。これらのことは「徳川実記」に記録として残されている。小石川養生所は明治元（1868）年に明治政府の接收するところとなり、147年の長い歴史を閉じ、貧病院と改称して終わった。その後、近代日本を特徴付ける病院が生まれていったのである。

講演Ⅱ、「有床診療所への期待」と題して、日本医師会副会長の横倉義武氏が講演された。

有床診療所は19床までの入院施設を持ち、住民の近くで地域に密着して専門医療、病院の後方支援、緊急時の医療、在宅医療、そして終末期医療まで幅広く実践しており、日本の医療システムが柔軟に対応できている要である。

現在、わが国の総分娩数の47%強が有床診療所で行われているということでも大切さがわかる。

講演Ⅲ、「東日本大震災・被災地の状況について」

今回の大震災で宮城県気仙沼市で自院も被災した森田医院院長の森田潔氏が講演された。

宮城県では9人の医師が犠牲になった。気仙沼市では44医療機関のうち32医療機関が被災し、中には

廃業する医院もでていた。講演の中では津波が押し寄せた時のDVDも映しだされ、森田院長が復興に向けて一生懸命頑張っている姿には心を打たれるものがあった。

コメンテーターとして、梅村聡氏（民主党参議院議員）と渡辺俊介氏（国際医療福祉大学大学院教授）の2人がコメントを述べたが、時間が無く多くを語られなかったのが残念であった。

有床診療所は毎年1,000近く減少しており、昭和61年には26,000施設あったが、現在10,620施設となってしまった。

日本独特の大事な医療施設を国民のために行政も医療関係者も最大限の努力をして残して欲しいものである。



「有床診療所の日」記念講演会次第

司会：全国有床診療所連絡協議会専務理事
鹿子生健一

挨拶

- (1) 日本医師会会長 原中 勝征
(2) 全国有床診療所連絡協議会会長 葉梨 之紀

講演

座長：全国有床診療所連絡協議会会長 葉梨 之紀

- Ⅰ. 「小石川養生所の設立と有床診療所」
日本医史学会理事長 酒井 ツジ
Ⅱ. 「有床診療所への期待」
日本医師会副会長 横倉 義武
Ⅲ. 「東日本大震災 被災地の状況について」
宮城県気仙沼市 森田医院院長 森田 潔

コメンテーター：民主党参議院議員 梅村 聡
東京女子医科大学客員教授
国際医療福祉大学大学院教授 渡辺 俊介

共催 日本医師会
全国有床診療所連絡協議会